

事例 11 計画策定時における地域懇談会の開催

(近畿中国森林管理局 和歌山森林管理署)



- ・和歌山県伊都郡高野町 高野山国有林
- ・(左) 地域懇談会(令和7(2025)年10月)
- (右) 間伐実施箇所の現地見学会(令和7(2025)年10月)

各地の国有林野の管理経営に当たっては、地域関係者の理解が重要です。このため、森林管理局・署では、5年ごとに行う国有林野の管理経営の指針等を定めた地域管理経営計画等の策定に当たり、地域関係者の意見を反映する機会を設けています。

近畿中国森林管理局と和歌山森林管理署では、令和8(2026)年度に予定している紀北森林計画区での計画策定に先立ち、令和7(2025)年10月に、和歌山県伊都郡高野町において、地域住民や林業関係者等を対象とした懇談会及び現地見学会を開催しました。

懇談会では、管理経営の考え方や主要事業の実績、次期計画の検討方向等について説明するとともに、森林整備の着実な実行や花粉発生源対策について意見交換を行いました。同署は、参加者からの花粉の少ないスギ苗木の確保方法や遊歩道の維持管理状況に関する意見等に対し、対応状況を説明しました。また、現地見学会では地元の要望に応じて間伐を実施した箇所の視察を行うなど国有林野事業への理解醸成に努めました。

今後、局・署では、懇談会で寄せられた意見を踏まえて地域管理経営計画を策定し、地域の実情に沿った管理経営を行うこととしています。